

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱ Child and Home Support, Child and Family Welfare System Ⅱ		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修 社会福祉主事任用資格に係る科目)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業 時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
高度な社会システムとともに生活も豊かになっている現代社会において、子どもたちが健全に育ち豊かな人格形成をすることがかえって難しい状況である。児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度Ⅱでは事例を中心としながら福祉・教育・心理など多角なアプローチによって理解を深めていき、子どもの個々の諸問題に応じた援助技術を学んでいく。				
授業の目標				
①様々な子どもや保護者、地域に対するアプローチ法を身につけることができるようにする。 ②臨機応変に対応できる効果的な実践力を身につけることができるようにする。 ③児童福祉の現状と諸問題及びそれに対応する諸制度及び施策について理解し、説明できるようにする。 ④子ども及び家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解し、説明できるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で授業をおこなう。事例を中心に考察していくので必要に応じてグループ討議やレポートの提出を実施することがある。自ら考えて実践する能力を養うために様々なアプローチ方法を学んでいく。				
学習の成果（学習成果）				
①事例を中心として、様々な子どもや保護者、地域に対するアプローチ法を身につけることができる。 ②効果的な実践力を身につけることができる。 ③児童福祉の現状と諸問題及びそれに対応する諸制度及び施策について体系化することができる。 ④子ども及び家庭の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要についてその特徴を述べるができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス・児童を取り巻く現代社会について			
第2回目	児童福祉の歴史的展開			
第3回目	事例分析法について			
第4回目	児童福祉と専門職について－専門性とは何か			
第5回目	児童福祉援助活動の実際－児童相談所の事例	レポート「児童相談所の役割と機能」提出は第6回の授業日		
第6回目	児童福祉援助活動の実際－不登校児の事例			

第7回目	児童福祉援助活動の実際－児童養護施設の事例	
第8回目	児童福祉援助活動の実際－知的障害児の事例	
第9回目	児童福祉援助活動の実際－母子生活支援施設の事例	
第10回目	児童福祉援助活動の実際－統合キャンプの事例(発達障害児へのアプローチ)	
第11回目	児童福祉援助活動の実際－重症心身障害児の事例	
第12回目	児童福祉援助活動の実際－児童虐待の事例	
第13回目	児童福祉援助活動の実際－多動児の事例 保育所の事例 全盲児の事例など	
第14回目	児童福祉を担う人々について レポート「児童福祉に関わる専門職とその役割」提出は第15回の授業日	
第15回目	総括 児童福祉の展望と課題について	
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業で不明であった点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者や担任に質問に行くこと。常に分析をする視点を持つこと。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト		
試験	70%	論述、選択記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容(態度含む)		
その他		
教科書と参考図書		
『児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度』弘文堂・『社会福祉形成分析論』大学図書出版 他 授業中に指示し、資料を配布します。		
履修上の留意点・ルール		
社会福祉士国家試験受験資格取得の為に必修科目である。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。		